

なかとんべつ ライドシェア

10年間の取り組みとこれからの展開

なかとんべつライドシェアは、町民のボランティアドライバーが自家用車を使用し、お出かけしたい方を目的地まで送り届ける事業として、平成28年度から取り組みを進めています。今年度、取り組み開始から10周年という節目を迎えたことから、これまでの経過を整理するとともに、これからの展望についてお知らせします。

これまでの経過

平成28年度から「なかとんべつライドシェアの実証実験」として、ドライバーと利用者の相乗りをマッチングし、利用者の負担が無い形で取り組みを開始しました。平成29年度から利用者から燃料代等の実費相当分を受け取る仕組みとして展開し、平成31年度からは実証実験を終了し、本格的に町の交通インフラとして位置付けて取り組みを進めてきました。

事業を進めていくにあたり、月に1回程度、事務局とドライバーが集まって交通グループ会議を開催しています。会議では、安全運転に関すること、町内の危険箇所の共有、地域交通のあり方や仕組みづくりといった議論を深めてきました。

地域公共交通としての課題

中頓別町における地域公共交通としては、浜頓別から音威子府までを接続するデマンドバス、一般混乗可能な浜高スクールバス、旭川方面への都市間バスなどのほか、介護タクシーと

いった町内の交通事業者による輸送が挙げられます。

都市部などへの移動に関しては、デマンドバスや都市間バス、JRなどを組み合わせることで一定程度の交通手段が確保されています。ただ、都市間バスの段差、JR駅の跨線橋など、歩行や上り下りに不安のある方にとっては、利用が難しい場面があります。また、中頓別町内でも自宅から病院まで歩くことに困難を感じる方もいる状況です。こういった場合、ハイヤーなどが利用されていますが、台数が限られていることから、稼働中に利用希望が重なり対応できない状況が発生します。

- 町内の交通資源 -

バス等の幹線

- ・デマンドバス（浜 - 中 - 音）
- ・浜高スクールバス
- ・都市間バス（旭川、札幌方面）

タクシー等

- ・ハイヤー 1台（休止中）
- ・介護福祉タクシー 1台
- ・なかとんべつライドシェア

利用状況まとめ

集計期間：H28/8/24-R8/3/31

運行内容

運行距離：34,597km

利用回数：2,996 回

・電 話 2,522 回

・アプリ 474 回

※往復での利用や一部の区間を相乗りしている場合には1回としてカウント

距離別の利用割合

3km 未満：約 65%

3km ～ 50km 未満：約 30%

50km ～ 100km 未満：約 4%

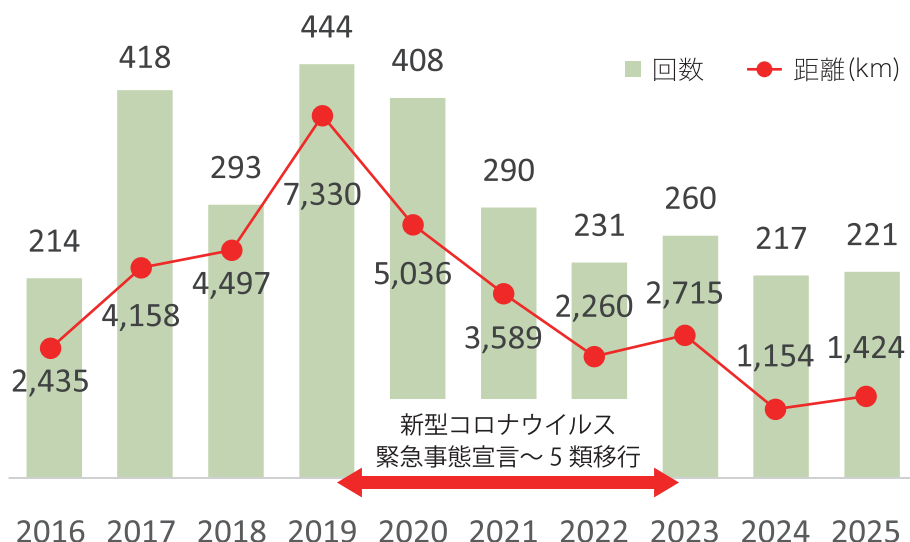
100km 以上：約 1%

決済方法

・現 金 2,631 件

・クレカ 365 件

2016 年からの総運行回数と運行距離



なかとんべつライドシェアの利用状況としては、新型コロナウイルスの流行により、運行回数および運行距離は減少傾向にありました。

この間の人口減少を加味すると、割合としての運行回数は回復傾向にありますが、運行距離としては減少しております。運行距離の減少の理由としては、コロナ禍以降、主に町内の交通手段として利用されていること、長距離のリクエストに対応しにくいことが挙げられます。

ライドシェアの利用実態

ライドシェアの利用実態として、ここ数年の状況を見ると、近距離のリクエストが多い状況にあり、長距離については対応できないことが多いことからリクエスト自体が減少傾向にあります。利用目的としては、町内での買い物、通院などのほか、夜の飲食店からの帰りなど町内の多様なニーズに 대응している状況にあります。

マッチングの状況

現状のマッチングの状況としては、事務局もドライバーとして稼働していることから、目的地が町内である平日のリクエストに関しては基本的に対応することができています。一方で、浜頓別町や名寄市など町外が目的地的の場合、あるいは土日祝日の配車ではマッチングできないことが多い状況にあります。

利用にあたっての心理的ハードルとして、電話で依頼があった際、マッチングの都合上、即時配車できない場合があることから不安という声が挙がっています。

ます。これは、ニーズがある時間帯と対応できるドライバーの稼働時間が合わないことが原因と考えられます。

ドアツードアサービスの概況

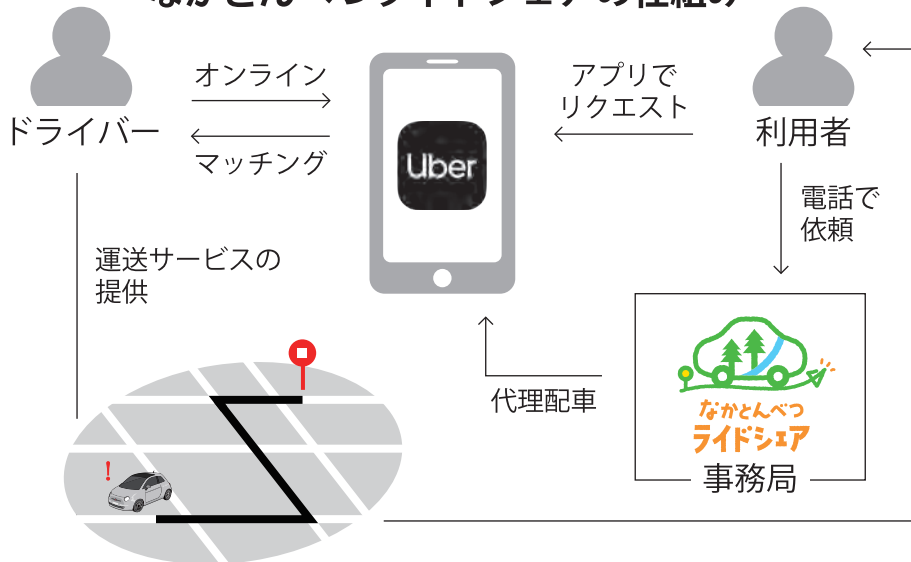
ドアツードアとは、タクシーやハイヤーのように、自宅の玄関から目的地的の玄関まで送迎する運送を指すものであり、中頓別町においては、ハイヤーや介護福祉タクシー、なかとんべつライドシェアなどが該当します。

現在、中頓別ハイヤーが休止中であることから、ドアツードアサービスのニーズが高まるとともに、ライドシェアの持つ役割にも期待するところです。

ただ、前述のとおり、マッチングの性格上、即時性を欠いた運用であることから、ハイヤー自体が持つ役割の重要性も認識するところです。

ライドシェアが持つ他の公共交通に対する補完関係を維持するためにも、町としてハイヤー機能の維持に向けて検討を進めていきます。

なかとんべつライドシェアの仕組み



ご利用のポイント

- ・町民に限らず誰でも利用可能
- ・ドライバーはガソリン代等の実費のみ負担
- ・発地または着地が町内であれば町外への利用も可能

アプリから配車が可能ですが、オンラインで待機しているドライバーがいないことがありますので、その際は電話にてご相談ください。

電話でのご依頼

- ・ライドシェア受付専用ダイヤル 080-2867-4112 に連絡
- ・迎車してほしい場所と目的地、行きたい日時を伝える
(例：明日の11時に自宅からコンビニまで)
- ・帰りも利用したい場合はあらかじめご相談ください

※長距離リクエストなどのマッチングには時間を要することがあります

※マッチングが不調の場合、お応えできないことがあります

今後の取り組み

今後の取り組みとしては、町民の移動ニーズに対しての稼働量を確保するため、ドライバーの確保を進めていきます。これまでは、ドライバー自身の車両を使用することが前提にありましたが、今年度から公用車を使用することが可能となりました。これによってドライバーの負担感を軽減することを期待します。また、現在の町内の交通資源を勘案して、ライドシェアとして専任のドライバーを確保することで交通手段を確保していくことも検討しております。ただし、既存の交通事業者との競合、新規事業者の参入障壁とならないよう十分に検討を行いながら進めていきます。

子育てライドシェアの検討

一般的に、子どもの習い事やクラブ活動などの送迎については、保護者の責任のもと行うものとされており、一方、中頓別町においては、市街地以外の家庭や近隣町村への習い

事といった長距離かつ拘束時間の長い送迎が行われている実態があり、なかとんべつライドシェア事務局としては、保護者の方の送迎負担を軽減することに加えて、保護者の都合で児童生徒の活動機会が失われないよう、ライドシェアの機能を活用して子どもたちの送迎を行う仕組みを検討しています。

例えば、浜頓別町への定期的な習い事に対して、浜頓別町への買い物や通勤者の帰宅といった日常の移動とマッチングし、保護者の送迎負担が分散され、送迎者としては自らの必要な移動に対して燃料代等の実費を受け取ることができるような制度設計を目指します。

なかとんべつライドシェアは公共交通の補完を目指す

過疎地域特有の課題を持つ状況にはありますが、地域公共交通が目指す姿としては、限られた輸送資源を活用して、移動総量を増やすことにあると考えます。単純にライドシェアの利用

check!

ボランティアドライバー募集中！ 今年度から公用車を使用できます

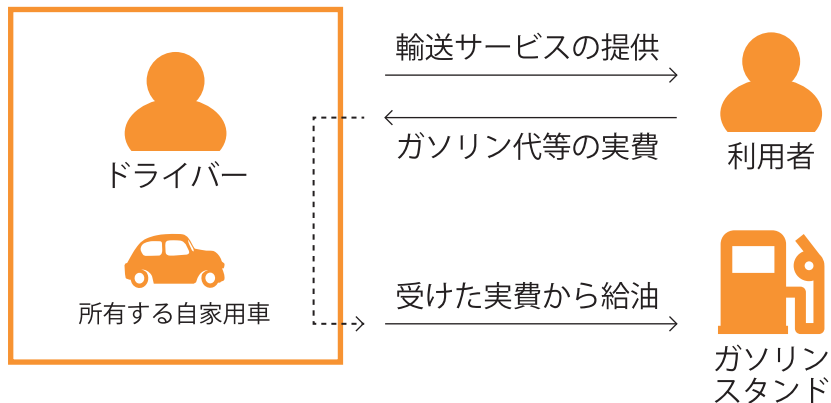


これまでの仕組みでは、ドライバーが所有する自家用車を使用して、利用者から燃料代相当の実費を受け取り、自ら給油する必要がありました。

今年度から、これまでの自家用車による活動に加えて、公用車を使用して稼働することができます。

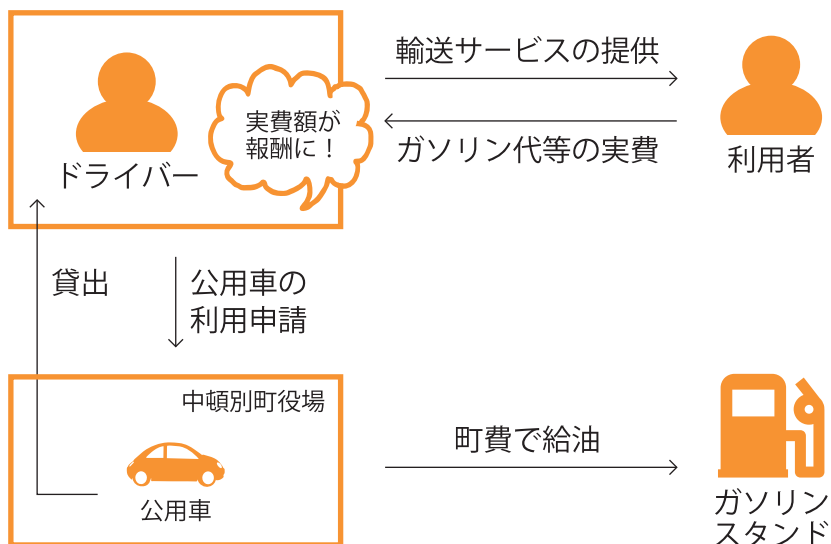
公用車使用の場合、燃料代は事務局が負担します。そのため、ドライバーは利用料の金額相当分を報酬として受け取ることができます。

ドライバーが所有する自家用車による稼働



NEW

新たな仕組み：公用車による稼働



いまなら

ドライバー登録 + 公用車試乗
で**モンベルのアウトター**を
プレゼント！

開催期間：
11/30 まで

ロゴ入り



※イメージ

数量
限定

ドライバー登録、ライドシェアの利用相談など、お気軽にご相談ください！
問い合わせ：中頓別町政策経営課（01634-8-7671）



受付専用ダイヤル (080-2867-4112)

電話受付時間：平日 9:00 ～ 17:00

- ・移動にお困りの方
- ・ちょっとお出かけしたい方

ぜひご利用ください！

を増やすだけでなく、町民の移動したいというニーズに応えられる地域公共交通を考える必要があります、様々な輸送資源を総動員して、町民の移動を支える、その中で対応しきれないニーズをなかとんべつライドシェアが補完していくことを目指していくものです。

すべての移動ニーズに対して、ライドシェアだけで応えられる運送は限定的かもしれませんが、お困りの際にはお気軽にご相談ください。